徳島新聞　平成29年5月25日

いじめ予防教育 宮城県議ら視察

藍住西小

宮城県議会のいじめ・不登校等調査特別委員会の委員ら13人が24日、藍住町の藍住西小学校を訪れ、子どもの自己肯定感を高めて、いじめを未然に防ぐ「予防教育」の授業を視察した。

予防教育のプログラムは、鳴門教育大予防教育科学センターが開発した。藍住町は2013年度から取り入れ、現在は町内全ての小学3年～中学1年の授業で行っている。

授業では、4年生の児童26人が5班に分かれ、自分の良い所や特徴を考えた。「いつも元気で明るい」「算数をすらすら解くことができる」などと付箋に書き出し、班ごとに発表した。授業後は教員らとの意見交換会もあった。

宮城県議会は、同県のいじめの件数や不登校の児童生徒の割合が全国平均に比べて高いことから、2016年12月に調査特別委員会を設置した。同県では4月下旬、仙台市立中2年の男子生徒がいじめ被害を訴えて自殺し、教諭が自殺前に体罰を加えていたことも問題になっている。

吉川寛康委員長は「児童が元気に授業を受け、お互いの意見を尊重し合っている姿が印象に残った。調査結果を持ち帰り、対策の検討をしたい」と話した。

（千里達彦）

※本ファイルの著作権は徳島新聞社に帰属します。記事・本文・画像の、無断転載は固くお断りいたします。